

# 2025年以降、火災保険の契約満期が大量到来へ 「火災保険見積システム」を共同開発

生保販売支援システム「ASシステム」・「AS-BOX」を開発・提供するアイリックコーポレーションと、自動車保険など計22社の損害保険を比較見積、申込できるサービス「ドコモスマート保険ナビ」を提供するドコモ・インシュアランス。保険DXを推進する両社は、「火災保険見積システム」の共同開発を進めている。開発の背景やコンセプト、想定される活用シーンについて聞いた。

## 火災保険契約は 最長5年に変更

——「火災保険見積システム」の開発背景について教えてください。

**三村** 民間火災保険は、年間保険料約1.4兆円の巨大マーケットです。しかし、従来は住宅ローンの年数に合わせて35年などの長期契約も可能であり、ほとんど保険見直しの対象となりませんでした。その状況が今、大きく変わろうとしています。

最も大きな変化は、保険期間の短期化です。2015年に火災保険の最長保険期間が10年に定められました。2022年にはさらに短くなり、最長5年とされました。これにより、2015年から10年後の2025年、2022年から5年後の2027年に保険契約の満期が大量に到来することになります。契約の流動性が高まり、見直しの機会が飛躍的に高まると想定されるのが、このたびの共同開発の背景です。

——「火災保険見積システム」の開発コンセプトについて教えてください。

**吉村** 自動車保険は見積もりを作成する際の入力項目が多く、またロジカルチェック項目が多いためエラーになることもあり、保険料試算に時間がかかります。そこで、RPA（ロボティック・プロセ

ス・オートメーション）システムとAI-OCR（人工知能技術を取り入れた光学文字認識機能）システムを通じて、複数の保険会社の保険料計算を効率化できる仕組みを開発しました。両社でこのノウハウを最大限活用し、火災保険の開発に着手しています。火災保険については保険会社様や他代理店との協業による高精度化も検討しています。

**三村** 同じ内容の補償でも各社によって表記が異なることもあり、そうしたゆらぎの吸収ではドコモ・インシュアランスさんが損害保険分野で培ってきた知識やノウハウが生かされています。AI-OCRでは、当社が得意とする保険証券の自動読み取り技術の強みを発揮しています。

## 火災保険の見直し提案は ポピュラーになっていく

——複数の火災保険を比べて選ぶということはこれまであまりされてこなかったかもしれません。実際、商品性の違いはありますか。

**吉村** 日本の民間火災保険は優れた商品ばかりです。ただ各社は創意工夫を凝らして商品設計を行っており、どれでも同じということではありません。住んでいる地域によって災害のリスクは異なり、火災保険に何を求めるかによって適切な商品は変わります。生命保険など同じ



アイリックコーポレーション  
ソリューション事業部  
三村 寛氏



ドコモ・インシュアランス  
取締役営業部長  
吉村 忠義氏

ように、契約者にとって複数の商品提案を受けるのは大切なことで、今後よりポピュラーになっていくと考えます。

——その提案ができることが募集代理店の付加価値になっていくということですね。金融機関の販売現場では「火災保険見積システム」をどのように活用できるでしょうか。

**三村** これまでも住宅ローンの契約時には火災保険の提案の機会があったと思います。ただ、その後は住宅ローンの契約者さまと接点を持つことはなかなか難しかったかもしれません。今後は5年ごとに見直しの時期が訪れますので、コンタクトを取るきっかけになるでしょう。提案の準備に手間と時間をかけずに済むよう、ぜひ「火災保険見積システム」を活用してほしいと思います。

**吉村** そうですね。三村さんとおっしゃったように、募集人の皆さまはお客さまのニーズを聞き、適切な補償内容を付保した提案をするところに力を注いでいただき、そうでないところではできるだけデジタルの力で効率的にというのが「火災保険見積システム」を開発した狙いです。2023年7月から提供開始を予定していますが、提供して終わりではなく、実際の使用状況を確認しながら、より良い機能の改善、拡充をアイリックコーポレーションさんと進めていきたいと考えています。

### 火災保険保険料見積RPAシステムのイメージ

